

取締役会全体の実効性の分析・評価の結果

サンコール株式会社 取締役会

当社取締役会は、その役割・責務を実効的に果たすため、取締役会全体が適切に機能しているかどうか運営状況等を定期的に検証・課題抽出し、問題点の改善や強みの強化等の措置等を講じていくことを継続的プロセスとし、毎事業年度終了後に“取締役会全体の実効性評価”として自己評価・分析を実施しております。

2024 年度の自己評価・分析につきましては、外部機関の助言を得ながら以下の方法で行いました。

2025 年 2 月に取締役会の構成員であるすべての取締役(監査等委員を含む)を対象にアンケートを実施しました。回答方法は外部機関に直接回答することで匿名性を確保いたしました。外部機関からの集計結果の報告を踏まえたうえで、2025 年 4 月の定時取締役会において、分析・議論・評価を行いました。その 1.評価項目、2.当期首に掲げていた課題への取組実績、3.分析・議論・評価の結果を踏まえた 2025 年度の課題は以下のとおりです。

1. 評価項目

当社取締役会は、取締役会としてその役割・責務を適切に果たしているかどうかを確認する評価項目を設定しております。そして、その評価項目については重要ポイントや優先課題の変化に合わせて毎年見直していくこととしております。

【2024 年度の評価項目】

- ①.取締役会の構成
- ②.取締役会の運営
- ③.取締役会の議論
- ④.取締役会のモニタリング機能
- ⑤.社外取締役（監査等委員含む）のパフォーマンス
- ⑥.取締役（監査等委員含む）に対する支援体制
- ⑦.トレーニング
- ⑧.株主（投資家）との対話
- ⑨.ご自身の取組み
- ⑩.総括

2. 前年度(2023 年度)の実効性評価の結果として認識した 2024 年度の課題と、それに対する取組実績

(1). 取締役会の議論

中長期での経営戦略に関する具体的な討議ができるよう、取締役会の年間スケジュールに組み込んだ上で、市場や事業の課題を提示しながら議論を深めていくこと。

(2024 年度の取組み)

年間スケジュールに“議論の機会”を予定し、次期中期経営計画の策定進捗状況とサスペンション事業撤退に関する議論を実施しました。

(2). 取締役会の議論

中期経営計画の進捗状況、課題や優先度をモニタリングするとともに、次期計画については策定時から取締役会にて議論を行ない、広範な意見を反映させること。

(2024 年度の取組み)

GGP24(中期経営計画 2022～2024 年度)の進捗状況については、喫緊の重要課題の検討に時間を要した為、十分に議論する機会を持てませんでした。次期中期経営計画(2025～2027 年度)の策定状況については、2024 年 11 月取締役会で策定中の原稿を説明し、2025 年 4 月取締役会で計画案に

ついて議論を行いました。

(3). 取締役会のモニタリング機能

グループ全体の内部統制システム構築に関する基本方針に基づき、子会社を含めたその構築・運用状況の監督・監視ができるよう、取締役会にて適宜報告すること。

(2024 年度 of 取組み)

内部統制システム構築の基本方針の運用状況報告を行いました(2024 年 12 月取締役会)。また、2024 年 12 月取締役会にてグローバルでの各拠点の現状について資料で確認しました。

(4). 株主（投資家）との対話

株主や投資家との対話の状況について、取締役会へのフィードバックを行うこと。

(2024 年度 of 取組み)

機関投資家との 1on1 ミーティングやスチュワードシップコードに基づく面談の実施状況について確認しました(2025 年 2 月取締役会)。

3. 2024 年度の分析・議論・評価の結果を踏まえた 2025 年度の課題概要

当社取締役会は、分析・議論・評価の結果、継続的に改善が進んでいることを確認しました。

またさらなる改善に向けて、以下の点について今後の課題と確認しました。

- (1). 中期経営計画の進捗状況のフォローアップ（目標未達に終わった場合には、その原因等を十分に分析し、株主に説明を行うとともに、その分析を次期以降の計画に反映）を実施する。
- (2). 経営戦略と連動した人材および人材戦略が重要であること等を踏まえ、人材に関する議論を行い、自社の人材戦略の方向性が経営戦略の方向性と連動しているかについて適切に監督する。
- (3). 社内の知財・無形資産を全社的に統合・把握・管理し、知財・無形資産の投資・活用戦略の構築・実行・評価について適切に監督する。
- (4). グループ全体の内部統制システム構築に関する基本方針に基づき、子会社を含めたその構築・運用状況の監督・監視を行う。
- (5). 取締役会で承認された重要な決議事項の実施後の状況について、必要に応じて取締役会へ報告するなど、フォローアップを実施する。

当社取締役会は、このようなプロセスの継続により、取締役会の実効性維持・向上に取組み、企業価値向上を目指してまいります。

以上